



2月 さあ、2月！！

2月になりました。今年は暖冬なのか、昨年と比べると雪が降る日も少なく、過ごしやすい日が続いています。しかし、全国的にインフルエンザが猛威を振るっていますので、子どもの健康管理はもちろんですが、ママやパパの健康管理もしっかりお願いしますね。



さて、四季は「春夏秋冬」というように、春を一番初めにしますが、冬の間、眠っているのが活動を始める春の季節は、1年の初めとしてふさわしいように思われます。季節に深いかわりを持つ農業では、昔から立春の日というのは、いろいろな目安、出発点になっていました。例えば、「茶摘み」の歌にある「夏も近づく八十八夜」というのは、立春から数えて88日めということであり、このころになると霜も終わりになるので、農家にとって大切な時期となります。また、毎年台風が来るころとして心配される「二百十日」もすべて立春から数えて表しています。このように考えてみますと「立春」という日は、別な意味での1年の初めということがいえるのではないのでしょうか。

「節分」は、季節のわかれめということで、1年に4回、立春・立夏・立秋・立冬の前日に、それぞれ「節分」があります。しかし、冬から春への「節分」だけが残っています。厳しい寒さの冬にとじ込められ、春を待ち、すべてが活動し始めることを待ち望んでいるということがよくわかります。子どもたちが、邪気(悪い気)を払って、新しく迎える春に向かって元気に過ごしてほしいと願っています。



～子育てワンポイントアドバイス～ ーパパ、ママは心の基地！？ー

2歳から3歳くらいになると子どもは外へと活動範囲が広がり、パパ、ママのもとから離れて、遊びに行くようになります。しかし、子どもがこれから出会う未知の世界は、魅力的であると同時に不安もたくさんあります。少しでも不安になったりすると、すぐにパパ、ママのもとにもどり、気持ちが満たされるとまた出かけて行くということを繰り返します。この時期の子どもにとってパパやママは、いつでも安心して戻れる距離と場所において、その時々の子どもの気持ちを受けとめてあげることが大切です。つまりパパ、ママは「子どもにとっての安全基地」として、大切な役割ですね。



～ 子育て支援センター「でんでんむし」の1月のイベントから ～

「子育て講話」25日(金)
 今回は武雄市子育て総合支援センターのセンター長の吉牟田美代子先生のお話でした。お話の中で「1ヶ月までの赤ちゃんの育て方・関わりが重要。精一杯関わってほしい。手のかかる子はそれだけ子どもに愛情を注いでいるということである。また“アタッチメント”として、子どもがネガティブの状態の時ほど、“受容”“共感”“応答”が大切。」ということが心に残りました。参加者からも「手のかからないいい子はいない…心にささりました。」「今を大切に子どもと向き合って抱きしめたい…と思います。」など、好評でした。

第6回「ママカフェ」10日(木)
 この日は、なんと25組、61名の参加がありました。お菓子をつまみ、お茶やコーヒーを飲みながらワイワイガヤガヤ…。
 たくさんのお友だちができたようです。ご参加ありがとうございました。

今月のメニュー

- 7日 10:30～「ママカフェ」
- 17日 10:50～「子育てイベント」
- ※ この日は文化祭です。文化祭の中で、佐賀女子短期大学の学生によるミュージカルを上演します。お楽しみに！
- ※担当:佐賀女子短期大学 教授 小川鮎子先生
- 19日 10:30～「お誕生日おめでとう」
- 19日 14:30～「食育相談会」
- ・講師:佐賀女子短期大学 専任講師 小島菜実絵先生
- ※全ての講座、イベントで託児あります。

☆連絡先: 多久市児童センター内「子育て支援センター」☆ [Tel 0952-37-1117] (みんな・いっしょに・いいな) ☆